



脱炭素チャレンジカップ2026 鹿児島県大会 報告書

【脱炭素チャレンジカップ2026 鹿児島県大会】
主 催 鹿児島県 環境林務部 環境林務課 地球温暖化対策室
事務局 一般財団法人鹿児島県環境技術協会 鹿児島県地球温暖化防止活動推進センター

「令和7年度 かごしまカーボンニュートラル・気候変動普及啓発事業」 2026年3月

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて

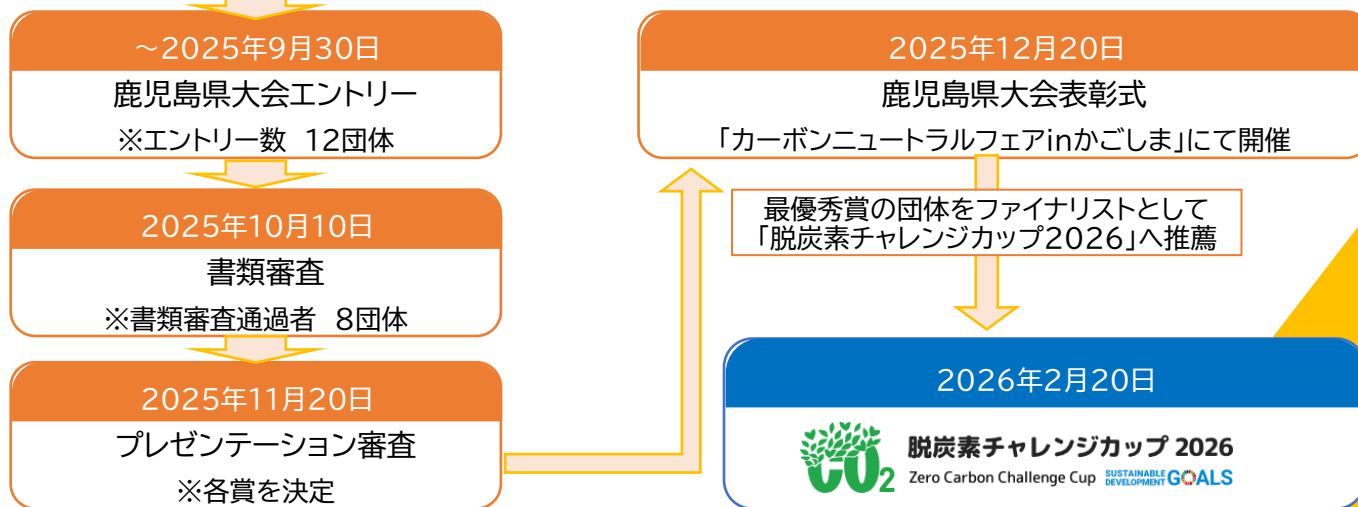
2050年カーボンニュートラルに向けて、それぞれが主体的に地球温暖化対策に取り組んでいただくことが必要です。

そこで、県、市町村、企業、団体等と連携して『「脱炭素チャレンジカップ2026」鹿児島県大会』を開催し、鹿児島県内の様々な取組を掘り起こすとともに、優れた取組を表彰しました。

これらの取組について、地球温暖化対策に向けた新たな「発見」や「気づき」を促し、「行動変容」の促進を図るため、広く県民・事業者等に情報発信しました。

■ エントリー募集から表彰式までの流れ

鹿児島県内を拠点として、脱炭素社会づくりの取組や地球温暖化防止に取り組む、市民団体、非営利団体、企業、自治体、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、専門学校等



■ エントリー団体の取組紹介

(順不同、敬称略)

団体名	取組名称など
SHIROYAMA HOTEL kagoshima	【森と海の繋がり～豊かな自然を未来の世代へ～】 地域の自然環境の保全と、地産地消、未利用魚や海の漂着物の有効利用などによる脱炭素
山川の海のゆりかごを守る会	【山川の海のゆりかごを守る会】 アマモ場造成によるCO2吸収とブルーカーボンプレジットの創出
山佐グループ	【みんなでつくる森と地域の脱炭素建築】 地域の木と人の力で、CO2削減と持続可能な社会を目指します
Anpira agriculture (アンピラ アグリカルチャー)	【奄美大島から地球を救おう】 CO ₂ 吸収量が多いモリンガを活用して、より多くのCO ₂ 削減を目指す
志布志湾再生プロジェクトX	【志布志湾再生プロジェクトX】 二酸化炭素等の温室効果ガスを吸収し固定するコアマモの移植活動等を実施しています
学校法人津曲学園 鹿児島修学館中学校・高等学校	【竹刀アップサイクルが拓く脱炭素と生育効果検証への挑戦】 廃棄竹刀を炭化し炭素を土壌に貯留、生育促進で大気中の二酸化炭素吸収量を増加させる

■ エントリー団体の取組紹介

(順不同、敬称略)

団体名	取組名称など
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	【セーフティドライブコンテスト】 テレマティクス技術で車両のCO2排出量をリアルタイムに可視化し、「エコ運転」を促進、脱炭素に取り組む
株式会社 ワット	【地域と未来をつなぐ再エネ地産地消モデル】 再生可能エネルギー100%供給と地域防災・教育を両立し、脱炭素と共生を推進
鹿児島市立吉野東中学校 ガイドボランティアOffice兵六	【私たちの校区にある世界遺産・寺山炭窯跡】 大雨で被災した寺山炭窯跡のガイド活動
色響 (イロヒビキ)	【海からの便りを音にのせて】 「今と未来はつながっている」を合言葉に発信「脱炭素」まずは知ることから始めてみよう
鹿児島県体験的環境学習研究会	【生物多様性保全活動は、脱炭素社会を目指すこと！】 身近な自然に目を向け体験を通して自然と人との共生の大切さを実感してカーボンニュートラルの行動につなぐ
鹿児島県立屋久島高等学校普通科	【脱炭素×企業×高校生】 高校生の探究活動と地域企業が協働的に地域全体の脱炭素化を促進させるプロジェクト

書類審査通過団体

(順不同、敬称略)

団体名	団体名
SHIROYAMA HOTEL kagoshima	学校法人津曲学園 鹿児島修学館中学校・高等学校
山川の海のゆりかごを守る会	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
山佐グループ	株式会社 ワット
志布志湾再生プロジェクトX	鹿児島県体験的環境学習研究会

受賞結果

賞名	受賞団体名
最優秀賞	山川の海のゆりかごを守る会
優秀賞	SHIROYAMA HOTEL kagoshima
奨励賞	山佐グループ
奨励賞	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
審査員特別賞	学校法人津曲学園 鹿児島修学館中学校・高等学校

脱炭素チャレンジカップ2026 結果

文部科学大臣賞 (社会活動分野)

脱炭素チャレンジカップ2026鹿児島県大会(地域大会)の最優秀賞「山川の海のゆりかごを守る会」の皆様を「脱炭素チャレンジカップ2026」ファイナリスト(最終選考)として「脱炭素チャレンジカップ2026」実行委員長へ推薦いたしました。

令和8年2月20日に日本科学未来館未来館ホールで開催された「脱炭素チャレンジカップ2026」表彰式にて、文部科学大臣賞(社会活動分野)を受賞されました！



表彰式当日の様子など、
こちらのサイトをご覧ください



脱炭素チャレンジカップ公式サイト
<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

最優秀賞

山川の海のゆりかごを守る会

(市民部門)

山川の海のゆりかごを守る会

アマモ場造成によるCO2吸収とブルーカーボンの創出



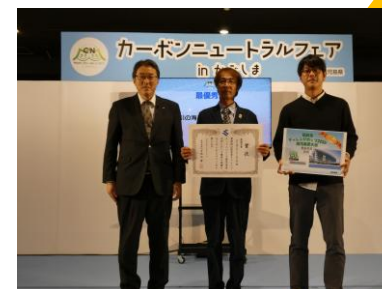
山川地域では、かつて多様な生きものを育む豊かなアマモ場が広がっていました。しかし、近年の地球温暖化による海水温上昇や植食性の魚(特にアイゴ)による食害の影響により著しく衰退し、いわゆる磯焼け現象が顕著となっています。こうした海洋環境の変容に対応すべく、山川町漁協を中心に、このプロジェクトを立ち上げました。

指宿市山川を拠点に、定置網漁のノウハウを応用した囲い網を設置し、その内部にアマモの種を付けたマットを設置することで藻場造成に成功しました。これにより、CO₂吸収による地球温暖化の緩和に加え、吸収したCO₂をブルーカーボンのクレジットとして環境価値に転換し、販売を通じて県内企業等の脱炭素化にも貢献しています。また、企業との連携や次世代への環境教育を通じて、地球温暖化対策の普及・啓発にも取り組んでいます。

審査員 講評

初めてのJブルークレジット認証をはじめ、自然共生サイト認定を受けた情報発信、これらを2024年のイタリアで開催されたG7サミットでの紹介されたことのほか、企業や地域の皆さんとの連携をはじめ取り組みには素晴らしいものがありました。

現在おきている異常気象を「誰かが解決してくれる。自分には関係ない。」ということではなく、「自分たちが解決していくことが重要」と締めくくっていることも良かったと思います。



優秀賞

SHIROYAMA HOTEL kagoshima

(企業・自治体部門)

森と海の繋がり ～豊かな自然を未来の世代へ～

地域の自然環境の保全と、地産地消、未利用魚や海の漂着物の有効利用などによる脱炭素



「城山の自然環境を守ります」、「持続可能な地域の発展に貢献します」、「先人の知恵を承継し人材の育成に努めます」というサステナビリティ基本方針に基づき、「環境配慮の取組」、「地域社会との共生を目指して」、「Well-beingの実現を目指す」の3本を柱に持続可能な社会の実現を目指しています。

大学生から小学生が参加し、ホテル敷地内でみつばちを育て、採蜜から商品作成まで行う「城山の森みつばちプロジェクト」、環境アート団体とコラボし、海の漂着物を利用して制作した楽器によるコンサート等を開催し、「もったいない」を「遊び」に変えるというアプローチで環境問題への関心に繋げる取組、山川地区アマモの場再生へ参画し未利用魚の活用など、地域の方々と連携して脱炭素や環境の保全に取り組んでいます。

審査員 講評

ホテル全体の活動の中で課題となっていることとして、食品ロス、エネルギー消費・CO₂排出、廃プラスチックを取り上げ幅広い課題に取り組んでおられました。

森林活動でクレジットされたカーボンニュートラル都市ガスの購入によりCO₂をオフセットしていること、さらに太陽光パネルの設置やCO₂ゼロMICE宴会場利用により、CO₂の削減に取り組まれるなど、とてもよく精査されていると感じました。鹿児島県の誇る老舗ホテルとして脱炭素の取り組みを先導することを願っております。



奨励賞

山佐グループ

(企業・自治体部門)

みんなでつくる森と地域の脱炭素建築

地域の木と人の力で、CO₂削減と
持続可能な社会を目指します



地域に根差した木造建築の普及を通じて、脱炭素社会の実現と地域経済の持続的発展を目指し、木材利用の拡大により、地域の雇用創出や森林資源の循環利用を促進し、住民の暮らしの質向上にも貢献します。

山佐グループは、地元の森の木を使って、CO₂をたくさん減らす建物づくりに取り組んでいます。重油を使わず、木の力で、地球にやさしい暮らしを広げています。イベントや見学会には、子どもから大人まで多くの人に参加し、森や建築の仕事に興味を持つ人も増えています。この活動は、鹿児島だけでなく、全国にも広げることは可能です。みんなで力を合わせて、未来のために森と地域を守る取り組みです。

審査員 講評

鹿児島から全国へ広がる脱炭素モデルとして地域活性化のロールモデルとして全国へも展開していきたいという熱い思いを感じました。これからも地域資源の活性化と脱炭素の両輪を目指し、地域も体も心も環境づくりに挑戦したいという目標に突き進んでほしいです。

鹿児島の誇る木材産業の山佐グループとして脱炭素の取り組みへのインパクトは大きいものがありますので、これからも森林・林業における取り組みを先導することを願っております。



奨励賞

あいおいニッセイ同和損害 保険株式会社 鹿児島支店

(企業・自治体部門)

セーフティドライブコンテスト

テレマティクス技術で車両のCO₂排出量をリアルタイムに可視化し、「エコ運転」を促進、脱炭素に取り組む。



セーフティドライブコンテストは、2024年度に始まった住民参加型の交通安全および脱炭素取り組みを支援するイベントです。チーム対抗のコンテスト形式で運転スコアを競い、ゲーム感覚で楽しみながら運転を改善することで、「エコ安全ドライブ」による環境に優しい運転の実現を目指します。

最先端のテレマティクス技術を体感しながら「エコ安全ドライブ」を競うことで、環境に配慮した運転を促進することを目的とします。これによりCO₂排出量の削減、燃料コストの低減、交通事故の抑制、SDGsへの貢献および脱炭素化を図るとともに、産官学が一体となって継続的に開催することで課題の解決に寄与します。

審査員 講評

安全運転、エコドライブ、そして脱炭素化が図られるものとして一石三鳥の効果が得られるものだと感じました。地域社会の未来を変える取り組みとして、参加者は安全運転を楽しみ、地域は安全・安心を享受するというサステナブルな取り組みといえます。

この取り組みに参加した人たちは少なくとも、エコドライブが脱炭素につながることを意識して取り組み続けると考えられますので、参加者の輪が広がっていくことを期待いたします。



審査員特別賞

学校法人津曲学園 鹿児島修学館中学校 ・高等学校

(学生部門)

竹刀アップサイクルが拓く脱炭素 と生育効果検証への挑戦

廃棄竹刀を炭化し炭素を土壤に貯留、生育促進
で大気中の二酸化炭素吸収量を増加させる。



地域の剣道クラブ、竹炭業者、学校が連携する三者協働モデルで廃棄竹刀を資源化し、竹刀の炭化により炭素を土壤に長期貯留し、さらにその効果で植物の生育を促し大気中の二酸化炭素吸収量を増やすという二重の脱炭素メカニズムに挑んでいます。科学的な検証のため、現在、効果の高い孟宗竹炭を用いた厳密な対照実験を学校で遂行しています。

廃棄竹刀の資源化を通じ、二重の脱炭素メカニズムの科学的検証と、脱炭素社会への深い理解を促し、結果が保証されない対照実験のプロセスを完遂することで、論理的な思考力と真の課題解決能力を育成することを最大の目的として活動しています。

審査員 講評

地域の剣道クラブと竹炭業者、学校の三者の協働モデルとして、廃棄竹刀を炭化することによりその炭を使って植物を育てる対照実験をされ、着眼点がとてもよかったです。学校生活の中でも夏場の部活やスポーツに支障が出始めており、運動会なども時期を変更しなければならない事態となっております。だからこそ脱炭素化を進めなければならないことを子供たち世代からも理解させ、取り組みを進めさせていただければと思います。



■ 審査員のご紹介 (順不同、敬称略)

審査員長	松下 正	一般財団法人鹿児島県環境技術協会 専務理事
審査員	松野下 エリ	鹿児島県 環境林務部 環境林務課 地球温暖化対策室 室長
	牧田 和博	鹿児島市 環境局 環境部 環境政策課 課長
	石窪 奈穂美	国立大学法人鹿児島大学 特命担当理事
	増永 吉亨	株式会社南日本放送 気象予報士
	塩川 哲郎	地球温暖化防止活動インストラクター

■ 総評

書類審査に12組の皆さんに参加いただき、その中から8組の皆さんに11月15日にプレゼンテーションに臨んでいただきました。このチャレンジカップの趣旨は、脱炭素の取り組みを県民の皆様へ広げていくこと、それも多様な主体と連携を図りながら展開していただくことを期待しておりますので、この大会に参加された団体の皆様と情報交換し、連携し、脱炭素の輪が広がっていくことを願っております。

県内でも熱中症による救急搬送が1800人を超しており、もはや猛暑が続いた日は、熱中症アラートが発令され、経済活動はともかく観光やスポーツにも影響が出ており、いまや線状降水帯による豪雨も国内各地で毎年のように起こりうる状況となっています。豪雨災害に対して、その後の対応を求める声はたくさん聞きましたが、その根本である温暖化対策を進めるべきだという声が少なかったことに対し、私どもも、さらなる取り組みと情報発信の必要性を感じております。

子供たちや孫の世代に持続可能な地球環境を引き継いでいくことは我々の責務だと思っており、脱炭素の取り組みは今や待ったなしです。皆様のこれからの活動にも期待し、県民の皆様へ大きなうねりとなって広がっていくことを願っております。

(審査委員長 松下 正)